

2002年度水たらい会誌「水たらい」の発行にあたって

# 水たらい トラスト ニュース

Sep. 2002 vol. 8

## contents

- 02年度総会&柳川町長と語る会 ..... 1
- 水源の森・みたけから ..... 3
- 由利厚子さんの死を悼んで ..... 4
- 百草薬 ..... 5
- 大豆畑トラスト夏祭り ..... 7

# 2002年度水トラスト総会&柳川御嵩町長と語る会

2002年6月15日

## 2002年度水トラスト総会

2002年6月15日午後2時より名古屋働く人の家において水トラストの総会が開かれた。

小栗副理事長の開会の辞で始まった総会は、2001年度事業報告、同年度決算の議決、2002年度事業計画、同年度予算の議決と遅滞なく進行した。

2001年度に水トラストが取り組んだ水源林保護育成事業は、「水源の森・みたけ」における野草採取と調理、間伐、作業小屋づくり、3周年コンサート、自然観察会など。環境保全啓発事業として「水トラストニュース6号」を発行した。

木曾川流域圏構築模索のためこれまで2回開催してきたシンポジウムは2001年度も開くことができなかったが、2002年度にはシンポジウムか木曾川流域交流エコ・バスツアーを企画・実現したいという意見が出された。また、民間財団（IIセブン・イレブンみどりの基金）から助成金を得て作業小屋づくりや森の手入れに必要な道具を購入したことが報告された。

## 柳川町長と語る会

この日は総会后に柳川御嵩町長と語る会がもたれた。柳川さんは、亜炭鉱跡落盤問題、小和沢産廃処分場問題、「ニュース」前号掲載の御嵩町環境基本条例制定、下流域に求めることなどについて理路整然と語った。

### 亜炭鉱跡落盤問題

今年国内最後の炭鉱が閉山し日本の石炭時代は終わった。御嵩の亜炭鉱は私が小学生の頃が最盛期であったが、昭和40年代に閉山し、残ったのは穴だけ。この廃抗道が落盤して地上に穴があく事故が年間10件ほど起きている。平成6年の夏には4軒の家が落ち、1億数千万円の被害が生じた。臨時石炭公害復旧法も01年度で終了してしまつた。5億円の基金残高の運用益で落盤事故などの復旧にあてるといわれているがそんなことではどうともならないだろう。

落盤はまったく予測できない。東海地震の震源域が先の見直して西へ50キロ移動したが、巨大地震の洗礼を受けていない御嵩町の廃抗道がどうなるか予想できない。

### 小和沢産廃処分場問題

平成3年8月に寿和工業産廃処分場計画が公になったが、直後に小和沢経由で計画されていた県道拡幅計画が中止になり、梅の栽培など小和沢地区振興策も雲散霧消してしまつたと聞いている。（そうした状況の中で）土地を売ってしまう地主が出てくる。安価で売却するため産廃処分場ができてしまう。

小和沢産廃処分場建設計画は止まっている。しかし仮死状態であり、（いっどこで復活してくるかかわからないが）様々な角度から計画を拒否する理論構築は済んでいる。

梶原知事が都市計画法（都計法）32条に同意するか否かの回答を求めてきたので、住民投票の結果に従うと回答した。その後2回Q & A取り交わしたがその後もない。都計法32条は、土地開発予定地内に公共施設がある場合、事業者は公共施設管理者と協議しないといけないと規定している。産廃処分場建設計画予定地内には1000坪の町道があり、この土地の事務手続きについて町長としては住民投票結果に従うと回答したわけである。

岐阜県の狙いは、「柳川町長だけがNOと言ってるから計画が進まない」と言わせたいのだろうが、予定地内にある県道（井尻・八百津線）を管理する県知事は同様の手続きを済ませたのかと質問したことに對して先の回答では「やってない」とある。地方自治法上公有地は行政財産（道路など）と普通財産（空地など）に分かれる。行政財産を売るには議会の議決を経て行政財産を普通財産に変更する手続きが必要。予定地内には御嵩町道、県道井尻・八百津線以外にも八百津町と御嵩町で管理する八嵩林道があるが、その何れも公有地を売って産廃処分場にする前提となる法手続きが何も済んでいない。

寿和は産廃計画関連の訴訟12本すべて取り下げた。盗聴犯への損害賠償訴訟だけが残っている。

### 御嵩町環境基本条例

条例制定委員会（審議会）は、どういう御嵩をつくりたいかの作文を提出して選ばれた委員が言いたいことを言う委員会。議長がそれをまとめ専門家が具体的な形形としてまとめる。（今は）能書きの段階であり、個別条例制定（来春めど）が重要。

（具体的な環境保全運動の取り組みでは）里山レンジャー（監視

員）によるごみの不法投棄や動植物の違法採集を監視する取り組みを始めた。（まったく任意の活動だと思われぬように）腕章やお揃いのジャンパー、証明書を用意して活動してもらっている。また、里山を人と環境のせめぎ合う場所＝環境前線と考え、小学生の野外学習としてボランティアと一緒に里山調査を行なった。

### 下流域に求めること

産廃処分場反対運動の高まりは一時的なものであり幻想持っていない。それより心配なことは、化学物質拡散問題。ノーベル賞取った野依教授の話聞いたが科学万能主義だと感じた。科学技術の発展による光と影の部分を考えないといけない。10万種類の化学物質が世界に存在している。フロンは30年代に開発され利用されてきたが、南極の昭和基地の観測でオゾンホールが発見されたのが契機となり製造・使用が禁止された。これまで安価で便利、安全といわれてきた物質が環境に重大な影響を与えている。

特に低濃度複合汚染が深刻だ。飲料水に含まれる化学物質は微量・低濃度で身体に影響を与え続ける。木曾川の水を飲んでいる名古屋市民はそのことを考えないといけない。1

トン1円の水源税を水道料金に上乘せする。そうすると年間6〜7億円の基金ができる。

最近の訴訟では、汚染の蓋然性を認め、事業者に安全性を立証する義務を課す判決がトレンドになってきている。500万人の原告で訴訟費用をフォンドしておくことは必要ではないか。





# 水源の森・みたけから

今年も暑い夏が終わりました。御嵩町に近い多治見市では38℃を記録しました。また、都会では南方系のクマゼミが大繁殖し、日本にはいなかったセアカゴケグモが越冬しているようですね。

さて、水源の森では植物たちの旺盛な光合成活動も終わり秋への支度が始まったようです。水源の森はコナラ、リョウブ、ソヨゴなどの広葉樹とアカマツなどの針葉樹が交った雑木林で、中濃中山間地の代表的な景観を有する森です。かつては薪炭材を供給するための大切な役割をもった場所です。昭和30年頃までは薪炭生産は山村経済の有力な支えで、昭和21年では全国の伐採材積のうち約半分の3000万立米が薪炭材でした。水源の森でも炭焼きの跡が株立になったコナラやリョウブを見るとその面影が感じられます（現に付近の森では一部薪炭材の伐採が行なわれているようです）。

しかし、昭和30年代から家庭燃料がこれまでの薪炭から石油系燃料に替わり、昭和40年代半ばには薪炭生産は潰滅的な状況になってしまったようです。この頃から山村経済は大きく変わり始め、高度経済成長の時期と重なり農山村から都市へと労働力の移動が始まり、山村社会に変化がもたらされることとなりました。

また一方では広葉樹の森は薪炭材から紙パル

プの原料供給としての新たな役割と加えて高度経済成長下での木材需要の増大により木材価格は好調に推移しました。そこで旧薪炭材の伐採跡地にスギ、ヒノキなどの造林が積極的にすすめられ、昭和36年には41万5000haの造林が行なわれています。ところが昭和39年をピークに生産量は減少します。昭和40年代になると輸入材が増加し、45年には木材供給の54%を輸入材が占めることとなります。その後55年以降は木材価格が下落傾向をたどることになり、加えて賃金、苗木代等の林業経営費の上昇により林業経営が圧迫されることになりました。また、労働力不足と高齢化も林業にとって厳しい状況をもたらすことになりました。このような流れの中で森は人の手から離れ、かつての里山としての機能、木材供給地としての森の役割がうすれて山間地の荒廃を招く結果となりました。御嵩町周辺の森も例外ではなくやはり人の手が入らない森が増えているようです。私たちは森へ行く中で森の持つ多義にわたる機能、いわゆる公益的機能を考えながら森づくりを進めていきたいと思います。この冬からは水源の森でも手付かずになったスギ、ヒノキの林で間伐、枝打ちの作業を始めます。みなさんの参加をお願いします。

木亦 信之

## 「くらしを耕す会」由利厚子さんの死を悼んで

岩月宏子（あいちゴミ仲間ネットワーク会議）

着した、地面に足をつけた暮らし方が、地場産業を守り、そのことが地域の環境を守ることに繋がるといったものだったと思います。この考え方が、ゴミ問題の解決にも通じる考え

8月10日早朝、くらしを耕す会の由利さん一家が、東名阪の重大事故に巻き込まれ、亡くなったという悲報が飛び込んできました。なんと惨いこと！

かれこれ6年ほど前、岐阜県御嵩町に持ち上がった産業廃棄物処分場問題に取り組んだ時、同じゴミ問題の会員として二人で何度も岐阜県に通ったことがありました。御嵩産廃問題は、下流域の都市が上流の山にごみを捨てると、そのごみの毒が、飲み水や農産物や魚になって、都市住民の所に返ってくるということを広く愛知県民に知らしめた事件でした。

彼女は、自分たちの食べる食べ物は、化学肥料や農薬を使わないものを、できるだけ住んでいる地域のものを食べることを目指して、「くらしを耕す会」という共同購入会を主催していました。御嵩産廃問題は、私たちに、木曾川という一本の川の流域で、上流と下流は運命共同体であることを気付かせてくれました。「くらしを耕す会」の生産者の位置も、その木曾川流域の地図に落とすことができることに気付いた彼女は、「流域自給」という言葉を生み出したのです。安全な食と農への取り組みと、ゴミ問題がぴったり重なり合ったのです。

「流域自給」の考え方は、できるだけ身近な地場で採れたものを食べ、地域に密

方の一つだと私は勝手に思っています。

安心して食べられる野菜、安心して飲む水を求めるのなら、ゴミという毒は、海にも山にも捨てるのは間違いなのでしょう。もっとも、一番大事なことは、毒のようなゴミを出さない、そういった物づくりが肝心ということだと思います。

一筋の川の上流と下流で命がつながる、人と物が行き交う「流域自給」というすばらしい考え方、言葉を残して、突然彼女は死んだ。最愛の息子と孫、そして猫と一緒に。その最期を想像すると、どうして彼女が、こんな惨い死に方をしなければならなかったのか、私は神を呪う。お通夜と葬儀には、彼女の突然の死を悼み、斎場はおろか、ロビーや階段にまで、身動きがとれぬほどの友人、知人が集まりました。彼女の活動と人づき合いの広さを改めて知りました。志半ばで逝った彼女も無念でしょうが、残された者の痛手も大きかったと思います。



大豆トラストニュース2号より

# 百草薬

谷本常子

「ウントコシヨッ！」

ギンギシと背中できしむ重い竹籠を縁側に降ろす

押し込んであつた雑草を広げると 改めて ムツと鼻を突く

生ぬるい草イキレ

四季折々 ふと蘇える子供時代の数々の思い出 中でもかな

り強烈なのの一つが百草摘みである

暑中休暇中 我々兄弟達に稼せられていた「行事」

百種余りの植物を出来る限り多く集める事 現在では変容著

しく緑の山も流れる川も姿を消して終つたが 当時は豊かな

自然に恵まれていた が 海拔七百米余りの高地とは言え夏

はそれなりに暑かった 弟や妹達も全身汗みずく 「顔から

塩が採れるヨー」等と言いつつ田畑の畦道や鎮守の杜 小川

の土手 流れの中 溜池の堤と

自宅の望める近間を遊び半の植物採集

持参した塩でスカンポ（スイコ）の茎をかじり ウツボ草

（ミツバナ）の甘い蜜を吸い 川に笹舟を浮かべ ススキ矢

を飛ばし と 合いの手に遊ぶ事も忘れてはいない

南に蓼科山 北に浅間山を望見出来る自宅横に二本の小川が

流れ 一本は明治時代に蓼科山の湧水から引いた「新田川」

絶えず清水が流れ ロングヘアの様な長い緑の藻やタイワ

ンゼリ（クレソン）等が流れに身をまかせて踊っている  
豊富な自然の懐に抱かれての摘み草風景―

のどけき哉

原田泰治代の童話の挿絵を見ている様に今その情景が脳裡に

浮ぶ

タライの様な大きな桶を置き冷たいポンプの井戸水でザブザ

ブ洗う

母はヘツツイ（カマド）に大きな鉄釜を掛け 洗い終わって

ザルに取つた草を母の元に運ぶ 子供はそれぞれ役割分担し

空腹も物かは すっかり釜に入つて終う迄立ち働く

母は水気をもう一度ギュッと絞つて釜に入れ厚くて重たい木

の蓋を乗せて火の調節をする たちまち草はへたつて行く

釜の中の塩梅を見ては草を足して行く―

グツグツと辺りに青臭さが漂つて徐々に薬つぽく甘い香りに

変わつて行く

どれ程の時間を費やしたかは定かではないが柔らかい部分が

煮溶け 木の枝や草の茎等の堅く残っている粗方のものを

うどん揚げザルで掬い取る

「ごらん あれ程の量もたったのこれっぽっちに煮詰まつて

終うんだヨ」

促されて釜の中を覗くと 底の方に茶黒くへドロ状の物がプ

クブクと泡立っている

火を弱くしたり すっかり引いて終つたりと木ベラを使いな

がら焦がさない様に仕上げるのが一苦勞なのだ と 汗を拭き

拭き言っていた母

翌日 大釜の底に黒く光る飴状のエキスは少し柔らかめのお餅のようになっていて俎板の上に広げた油紙の上に薄く伸ばして行く

「おいしそう！」

眺めているばかりで子供等は役に立たないこの作業 汗ばかりは皆平等にかいている

ほんの米粒程も無駄にしない 美味しそうに見えていても

このニガミは「天下一品」

すっきり乾燥して堅くなった板を晒の袋に入れ 小さい木槌で細かく砕く これようやく百草薬の完成！オブラートなして口にする事は出来ないシロモノである

戦後の食糧難の頃 家中で採って来たどっさりのキノコで自家中毒を起こし 医者のお世話にもなる事なく 一家の命を救ってくれたのもこの百草であった

二十五年前 七十六歳で亡くなった母の健在中は 一人黙々と継続し 汗から生れた宝石の様な一片を 我々六人の子供達は当り前の様に貰っていたのだ この半世紀 化学も医学も文明の進歩と共に 全てが変貌した 良くもあり悪くもあり

ふる里に 恋しい人も居なくなつて たまの墓参位に帰省するのみ

蓼科山は南に 北には浅間山 美しく裾を引き 泰然自若の雄姿は 故郷で変わらない唯一永遠のもの…多分…

(たにもとつねこ ふるさとの自然を愛するスズサイコの会)

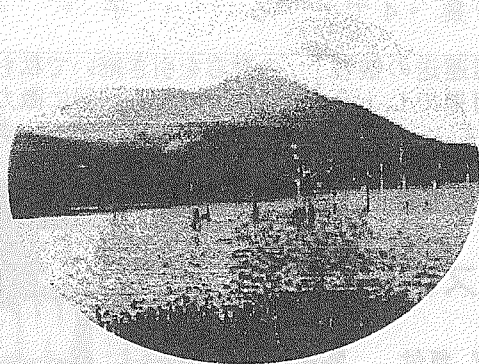
ふる里の

山に向いて いうことなし

ふる里の山は

ありがたき哉

石川啄木



## ●大豆畑トラスト夏祭り

7月27、28日と岐阜県加茂郡白川町黒川で「流域自給をつくる大豆畑トラスト」の夏祭りがありました。

国道41号線を白川町めぐざして走ると飛騨川とそれに連なる山々が絶景で、これをながめる度、ビルに囲まれているのでは違った感性が育つのではないかと思っております。

41号線を外れてさらに1時間弱、かつて苗木藩といわれていた黒川に着きます。ここ黒川は特に面白い人が多いようです。大豆トラスト生産者の6人衆もそれぞれ個性的：

集合場所の歌舞伎小屋東屋に着くと、すでに準備が着々と整い、一方では親子で野外活動、散策中だったり。夕食が始まる頃には大きな3つのテーブルに人がぎっしり。ソーメンと地元で採れた新鮮な野菜、美味しいブタ君の鉄板焼きに舌鼓。泡の方が多いビールを飲みつつ自己紹介。家族、学生グループ、友人と参加した人たちがそれぞれ

の思いを述べます。大沼夫妻と私は、一緒に立って水源の森・みたけをアピール。

この大豆トラストを地道な努力で立ち上げた由利厚子さんが、7月に行なわれ、11月にも集会が予定されている「ストツプ！遺伝子組み換えイネ」に対しての思いと参加の呼びかけをされました。涼しいときいていた黒川の夜でしたが、この日は蒸し暑い夜でした。それでもゆるやかに時間の流れるおだやかなひと時でありました。

次の日は、大豆畑、アイガモ田の見学後、神社の朝市でゆっくり楽しんで：

一隅で表わらを使って馬やホタルカゴの作り方を子供たちに教える由利さんの姿もありました。由利さんはこのあと近在のエゴマの講演会に参加して、最近交流を始めた御嵩町の農業者の方に顔を見せに寄ったようです。

今年の大豆トラスト夏祭りは特に長く参加者の心に刻まれることでしょう。産廃問題が公になってから変わらず御嵩町に関

心を持ち続けてくださり、水トラストの運動にも足を運んでくださった由利さん。本当にありがとうございます。御嵩町小西和子

## ●森の作業今後の予定

丸太小屋づくりは屋根を乗せるところまで作業が進みました。目に見えて小屋が出来上がっていく作業は本当に楽しいものです。なんとか、この秋森開き4周年には完成させたいものです。人手は多ければ多いほど作業も進みます。大工仕事未経験でもぜんぜん平気です。小屋建設のほかに散策路の手入れもそろそろ必要になってきています。いくらでも仕事はありますから軽い気持ちでぜひご参加ください。

## ●事務局スタッフ募集中！

みたけ・500万人の木曾川水トラストでは、事務局機能を担うスタッフを募集中です。特殊な知識や経験は要りませんが、やる気は少しだけ必要です。興味本位でも結構です。一度事務局会議に参加してみませんか？

の遺志を引き継いで私も水トラスト運動の発展に微力ながら尽力したいと考えています。合掌 (K)

長距離運送の犠牲になるには何の因果でしょうか。極めて残念です。ご冥福を祈るとともに、そ

総記にある記事にも由利さんは参加してくださいました。地域自給を實踐中の人とその

## 特定非営利活動法人NPO

### みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034

名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家 気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替 00800-9-64810

MITAKE  
Wishing Well  
Trust